

今号のわだい

- 【1面】第61回定期大会in三重
- 【2面】定期大会・発言から
- 【3面】栃厚労これまでのたたかい
- 【4面】様々なグッズで共済伝える



全国労働組合連合会  
厚生連

〒110-0013 東京都台東区入谷 1-9-5  
TEL 03-3874-3591  
FAX 03-3874-3593  
発行日 毎月 20日  
定価 30円



大会を支えていただいた三重県の仲間

折笠副委員長が開会あいさつ。「東京でのオリンピック開催が決まったが、それによって福島の復興が後

全厚労の特徴  
活かして運動を

折笠副委員長が開会あいさつ。「東京でのオリンピック開催が決まったが、それによって福島の復興が後

回しにされないか不安を感じている。安倍首相は「安全」を国際公約したが汚染水問題もまったく対処できていない。国際公約を果たすように、福島対策を進めさせたい」と訴えました。主催者あいさつに立った

全厚労は、9月13〜14日、三重県賢島の宝生苑にて第61回定期大会を開催しました。20県から198名が参加、栃木県厚生連労組の解散を受けるなど、歴史的な節目を感じさせる大会になりました。

それぞれの経験・教訓を活かし  
働くものの生活と権利、地域医療を守る運動を

全厚労第61回定期大会in三重

でもらいたい」と述べました。

3年計画で  
夜勤規制・増員へ

日本医労連の中野書記長が来賓あいさつ。「これまでの運動の中で、夜勤の有害性に対する認識も高まり、夜勤規制の機運が出てきている。これから3年間、国政選挙がないなかで、3年間の計画的な取り組みで、看護署名を集め、地域に出て世論を動かし、国会を動かしたい。地域キャラバンへの結集や職場での取り組みで、声を大きく上げてほしい」と訴えられました。

2年半前の状態  
今も残る被災地

その後、福島から、震災2年半を経ての現状と課題について、スライド等を使って特別報告してもらいました。原発事故が収束していないだけでなく、制限区域では、2年半前の状態がそのまま残されている様子などが紹介されました。また故郷に帰れない双葉分会

の仲間たちが5つの病院に散らばっているなか、双葉分会臨時大会を開き、分会存続を決めて頑張っていることが話されました。また現在、白河厚生に勤める高橋さんも演壇に立ち、震災当時の苦労と今の気持ちを話していただきました。参加者には、これからも長く続く福島問題を忘れずに、全国から復興に向けた声を上げてほしいと訴えられました。

原発事故を抱えて看護師・介護職不足に悩む福島での取り組みや、「サービス残業(不払い残業)」をなくす取り組み、委員会・研修の負担軽減、休暇の拡大などが、あちこちで粘り強く取り組まれていること、また地域住民とともに病院・診療所を守る運動や、地域とのつながりづくりなどの課題が強調されました。

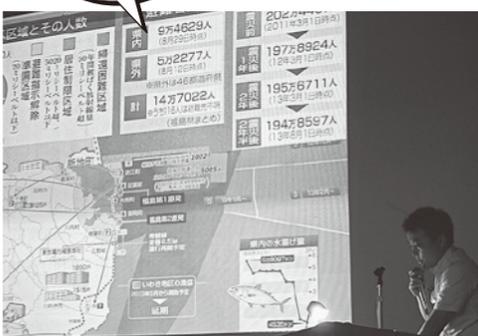
夜勤交替制改善や  
業務軽減に向けて

また今大会をもって解散となった栃厚労のたたかいについても特別報告をしてもらいました(3面詳報)。

「おもてなし」の  
三重県に感謝

ホスト県の三重からは、参加者に様々な特産品が振る舞われ、多大な「おもてなし」を受けました。またニュース発行や大会準備などでもご奮闘いただきました。三重県厚生連労組のみならず皆さんに感謝申し上げます。来年は広島での開催です。

故郷を追われた被災者はいまも15万人



震災ボランティアに参加する福厚労の仲間



全厚労13年度・重点目標

看護師等の働き続けられる職場づくりのために

- ①実効性ある「夜勤協定」を締結し、夜勤点検、増員につなげます。
  - 夜勤は3交替、一人月8日以内を原則とします。
  - 予備率を含んだ病棟毎の人員配置を明確にします。
  - 勤務間隔を12時間以上、確保します。
  - 「正循環」勤務シフトを目指します。
  - 夜勤時の時間外労働を制限します。
  - 長時間2交替労働をなくしていきます。
- ②労働基準法違反をなくし、とりわけサービス残業を改善・一掃します。
- ③多すぎる委員会・研修・研究などの負担を減らしていきます。
- ④有給休暇取得向上、リフレッシュ休暇など、生活のゆとりを取り戻します。
- ⑤院内保育所の設置・充実、育短制度などの子育て支援を充実させます。
- ⑥職場のメンタルヘルス対策、労働安全衛生活動などを強化します。

とりわけ時間外労働削減や有休取得向上、労働安全衛生活動などは、全職種に関わる課題として位置づけ、取り組みを強めます。

# 定期大会の討論から

大会討論では、5つの専門部と11の県から合わせて18件の発言がありました。夜勤交替制労働の課題や、サービス残業改善、地域住民とのつながり、非正規の組織化など、方針にそって多方面に渡る発言となりました。

## ペナルティで夜勤制限へ

長野・茂原さんは、佐久総合病院など6支部で進む再構築の状況とともに、各支部で再協定してきた夜勤協定遵守の課題、夜勤制限に向けペナルティとして9回以上で段階的に引き揚げられる夜勤特別手当を設定して管理者に管理意識を持たせていること、山口の「連休カレンダー」を参考に、連続休暇取得の取組みを推進していることなどを報告しました。

## 夜勤規制は必要不可欠

福島・根本さんは、人手不足などを理由に2交替や夜勤専従の提案が看護部長から繰り返しあり、メリックトとして若いナースの希望やWLBが上げられているが、3交替月8日の夜勤協定や夜勤リスクの問題から労組は認められないとたたかっていると報告。看護協会「ガイドライン」を理由に様々な変則勤務も提案されており、都合良く解釈されないようしっかりと学んでいくことが必要だと強調されました。

## 介護職確保への支援を

福島・大友さんは、ヤマ



看護署名をたくさん集めたいと香川・田村さん

ト財団の支援によって、100床の老健施設が鹿島に造られているが、介護職の確保が課題だと発言。2014年から被災3県に介護職の就職支援金に10万円、住宅手当補助に2万円支給される、浜通では先行支給されているが、むしろ離職防止の為に回してほしいという意見もある、国や厚労省にもさらに声を上げて欲しいと訴えました。

## 事業所間格差を改善

愛知・寺本さんからは、愛厚労の方針として、事業所間格差改善の課題で、経営制度の一部見直しを実現し、郡部職員のモチベーションアップにつなげられるよう取り組んできたこと。また夜勤専従について「試行」を許してしまっただが、なしくずし的に導入されないう、具体的にチェックをすすめる、働き続けられる看護職場づくりに取り組みでいききたいと発言しました。

## 労組で労務管理学習会

北海道・栗田さんは、労組主催で初めて「看護科長・主任学習交流会」を開いたことを報告。新任役付者80名と本部役員25名が参加し、方針の「働きがいの

ある職場の実現」に向け、3部構成で、①労組の考えの労務管理、②OGによる「看護配置基準を極める」学習、③今にあった働き方を考える」をテーマにグループワークを行うなど、労働環境改善、労務管理の基本を学ぶ場となったと話しました。

## 休職規定を協議整備

神奈川・関谷さんは、昨年から私傷病による休職規定整備で交渉し、会側は従来の100%を60%に減額する案を出してきたが、全厚労各県の制度を参考に80%を維持、また会側の恣意的な運用のないように規定を定めさせた、また健管センターで起こったパワハラ問題に対応し、実態調査や声を集めて改善を求めるなかで組合員拡大を進めていると報告しました。

## 「第2組合結成」に對抗

新潟・太田さんは、長年培われた労使協定や慣行が無謀な会の介入によって、壊されようとするなかで、「サービス残業ゼロ運動」に取り組んできたこと、ア

## 増員署名を今まで以上に

香川・田村さんは、滝宮の新病棟と屋島の平成28年度新築のなかで、一時金では農協出資の問題と農協他連との水準で若干のマイナスを余儀なくされた報告。労組の課題として、欠員補充問題や夜勤協定の遵守、委員会の改善、有休取得の取得格差などに取り組むとともに、増員署名は、組合員比では一番集めたが、一人5筆目標を越えてさらに集めていきたいと決意表明しました。

## たたかいの伝統を将来に

富山・吉滝さんは、夜勤

ンケート活動で実態調査に取り組んでいることなどを報告。また最近、第2組合の結成が明らかになり、組合分裂の動きに、「組合は一つ」と運動していること、今後のたたかひへの支援を訴えました。

## 非正規の組織化を強化

茨城・藤田さんは、取手の保育所委託問題は、12月末に直営を勝ち取り、保護者らも含めて保育内容改善に取り組んでいると発言。4月には4名採用があったが准職であり、非正規の組織化問題を強化していく。また高萩給食問題では、委託に変わって変化がないという期待はずれの声が多く、職員食も高いなど不満があり、たたかひの中で立ち上げた給食対策委員会は引き続き活動していくと報告しました。

## 一時金ダウンを増員に

広島・岡田さんは、経営改善が課題となるなかで、年末一時金の交渉で、やむなく0.3ヵ月分を支給保留としたものの、結果として0.2ヵ月分支給となったこと。その後、広島総合病院での0.3ヵ月支給が明らかになり、抗議と交渉の結果、尾道では病棟毎に次年度2名の予備要員、さらに平成29年度までに予備率15%へ、吉田では、準夜3人体制を4人体制へグレードアップすることになったと報告しました。

## 地域医療懇談会を継続して

長野・小林さんは、長厚労各支部で「安心して暮らせる健康な農村」と「地域医療」の発展を目指して地域住民とともに進めている地域医療懇談会の取り組みを報告。佐久・小諸支部が参加する「川西地域医療懇談会」では、140名が集まって、川西日赤の存続問題を地域全体で取り組んでいること、篠ノ井支部では、

### 大会メッセージを いただいた組織

- 全国組合
  - 全医労
  - 全日赤
  - 健保労組
  - 全労災
  - 国共病組
  - 公共労
- 都道府県医労連
  - 北海道
  - 秋田県
  - 福島県
  - 山形県
  - 新潟県
  - 長野県
  - 茨城県
  - 埼玉県
  - 東京
  - 愛知県
  - 大阪
  - 広島県
  - 山口県
  - 徳島県
  - 高知県
  - 鹿児島県
- その他の労組・友誼団体
  - 全労連
  - 国公労連
  - 建交労
  - 特殊法人労連
  - 全教
  - 民放労連
  - 航空労組連絡会
  - キャピクルーユニオン
  - 全農協労連
  - 鹿児島県農協連労組
  - 保団連
  - 日本医療総合研究所
  - 全国革新懇
  - 日本原水協
  - 日本国民救援会
  - 日本平和委員会
  - 日本中国友好協会

(順不同)

## 2013年度全厚労役員名簿

- 「地域医療を考える会」として、70名が参加し、地域ニーズに応える企画で安全・安心をテーマに食生活の問題などを学んでいると発言しました。
- 現場の声聞く病院運営を**  
埼玉・栗原さんは、久喜への新築移転から2年半が経過し、昨年に1病棟の開棟で職場に混乱や離職を生み出したにも関わらず、残る1棟の開棟が急に決定されたことに対して、現場からの声を経営・管理部につつけようと動き始めたこと報告。また組合員が増えるなかで、様々な課題に対し組合執行部が自立して動くことのできるよう、組織強化をしていきたいとの決意を示しました。
- この他、各専門部からは、それぞれに集会内容や各県での特徴的な取り組みについて報告がありました(全厚労ニュース8月特別号などを参照)。
- 中央執行委員長**  
久保喜代子(再・三重)  
富永みち子(再・広島)  
竹田明夫(再・山口)  
矢野潤一(再・香川)  
大和崇史(再・徳島)  
上森美菜子(再・高知)  
中野綾(再・大分)
- 中央副執行委員長**  
茂原宗一(新・長野)  
佐々木剛(再・秋田)  
折笠由美子(再・福島)  
白井康博(新・新潟)  
岡部義秀(再・神奈川)  
伊藤岩吉(再・三重)  
白濱勉(再・徳島)
- 書記長**  
松尾晃(再・本部)
- 書記次長**  
和田祐輔(再・新潟)  
小林吟子(再・長野)
- 中央執行委員**  
宮川健太(再・北海道)  
島輝義(再・秋田)  
伊藤友隆(再・福島)  
置田裕文(再・富山)  
江野忠章(再・茨城)  
小野寺誠(再・埼玉)  
大塚温(再・神奈川)  
三井賢一(再・静岡)  
山田浩昭(再・愛知)  
田宮久史(新・岐阜)
- 中央執行委員**  
渡辺一信(長野)  
島崎洋(北海道)  
佐藤順子(新潟)
- 中央執行委員**  
板越真悟(茨城)  
竹澤昭(栃木)  
金田さえ子(岐阜)
- 会計監査**  
枝松広祐(北海道)  
服部学(愛知)  
西原寛之(山口)

# 地域医療と雇用を守るために…

## 厚生連解散に対する栃厚労の取り組み

特別報告 酒巻 正和

### 人員不足による 病棟閉鎖がダメージに

栃木県厚生連の経営は01年までは基本的に増収傾向でしたが、94年までの6年



塩谷総合病院 (08年当時)

間で塩谷総合病院新築のため160億円の巨額設備投資し、そのほとんどを借入金に頼ったため、財政基盤が急激に悪化しました。少額の資金でも調達したいと慢性的赤字を抱えていた間々田病院を厚生連全体は赤字にもかかわらず切り捨て、この時から「赤字なら切り捨て」の考え方が始まったといえます。

99年に退職給与引当金を一挙に繰入れ、帳簿上「債務超過」にして「厳しい経営実態」と

### 地域医療を守るために あらゆる取り組み

07年12月「塩谷病院の経営継続は厚生連継続の根幹にかかわる」と「08年度末に移譲先は決まっていないが経営譲渡をする」と突然の通告がされました。厚生連としての塩谷病院の存続の闘いは、裏切られたとの思いが職員間に強く生れた事もあり、なかなか一枚岩になることができませんでしたが、最終的にはたとえ譲渡されたとしても病院機

能を継続し、全職員の雇用確保・地域医療を守る闘いとして取り組みました。

地域住民と共に「塩谷の地域医療を守る会」を発足し、地域聞き取り調査、ビラ配布、署名行動、自治会・区長・市長等との接見や地域住民を対象とした集会・シンポジウム、経営状況と対応の学習会など、ありとあらゆる行動を行ないました。09年4月に国際医療福祉大学に経営移譲されまし

して一時金の成果配分方式による人件費削減のみで債務超過解消を図ってきました。96年度末で120億円あった借入金も05年度には帳簿上解消しました。会が「債務超過解消後は一時金に最大限配慮」という労使

協定を一度も履行せず、超低率の一時金支給を続けたため、あまりにも身勝手な姿勢に離職する者が後を絶たず、人員不足による病棟閉鎖に陥り、その後の経営に大きなダメージを与え続けました。

たが、廃止されずに引き継がれる事で、不十分なながらも医療提供の継続と雇用確保ができたことは最低限役割を果たす事ができたと思

います。

### 厚生連の魂まで なくすのか!

塩谷病院の譲渡と同時に農村健康管理センターも廃止したことに対し、交渉の中で「厚生連の魂までなくすのか!」などと詰め寄っても「経営管理委員会での決定」の一点張り、「赤字なら辞めろ」の経営主導主義の考え方がますます強まったといえます。会は経営基盤の悪化について「医師臨床研修制度で医師確保が困難になった」として

いますが、経営不振の大きな要因は、働く者を大切にしないその姿勢であり、何でもありの強硬な手法によって医療従事者の離職に歯止めがかからず、再び債務超過となるという負のスパイラルに陥らせたことです。地域医療崩壊が叫ばれる中、老朽化した下都賀総合病院の建て替えが待ったなしの状態に對して、会は病院統廃合や病床数削減が条件の「地域医療再生交付金」授受に大きく動き始めました。

### 厚生連解散の通告

08年度末に県内各JAが約37億円の債権放棄(一端、中央会が預かり10年度末に債権放棄)し、債務超過状態は脱出したものの財政基盤は貧弱のまま下都賀病院新築の財務力はもはやありませんでした。運転資金不足解消のため、栃木地区の救急受入れ40%を超過す中核病院と言うこともあり、09年から栃木市より3億円の融資を受けていました。

その様な中、12年10月の労使協議会の中で石橋総合病院を「医療法人社団友志会」へ経営移譲し、合わせて13年3月末に厚生連を解散すると通告されました。解散に伴う問題として下都賀は新法人への雇用は全員約束されていたものの退職金支給が困難であり、石橋は経営譲渡金で退職金を支払うものの雇用継続は未定とされた事でした。

### 地域医療を守る 取り組みを継続

職員の間には計りしれず、このままでは離職により人員の確保が難しくなり、その事がさらなる医療提供の低下につながってしまう事が明らかです。労組の使命である地域医療を守るために徹底的にたたかて行くことを決め、上部組織及び外部団体の協力も得て「栃厚労共闘会議」を12年11月に結成し、県および下野・栃木両市への要請行動や共闘メンバーを含めた労使協議等、様々な行動をしました。

最終的には退職金について石橋は全員が5月に支給され、下都賀は新法人への契約は95%とし、残りの5%についても支給される見通しとなっています。共闘会議の行動が不透明であった下都賀の退職金の確約、

特に新法人による個人への退職金確定額の通知に大きな影響を与えたことは間違いないです。雇用面では6名の不採用者が出てしまいましたが、厚生連が新職場等へのあっせんを実施していましたが本人達のあっせん辞退もあり、実質雇用確保については打ち切らざるを得ませんでした。

13年4月からは「とちぎメディカルセンター下都賀総合病院」として再出発し、今後は全員への全額支給と、地域医療を守るために引き続き労働組合を存続させ、新法人へ要望書提出等、取り組みを継続していきます。

これまで多くの先輩方の尽力や全厚労・医労連の仲間、そして地域の方々に支えられてきました。そのことに感謝を申し上げ、これまでの医療労働運動を糧に更なる発展をし、今後も地域医療に貢献していくことを約束し、総括とさせていただきます。言葉とさせていただきます。本当に長い間ありがとうございました。

### ニユース笑ア7

芝田☆友衛



地域医療の充実署名の取り組み

この頃から市の介入が徐々に始まり、地域医療再生交付金の条件である下都賀総合病院・郡市医師会病院・とちの木病院の3病院



定期大会に参加された栃厚労のみなさん。右から2番目が酒巻さん

定期大会に参加された栃厚労のみなさん。右から2番目が酒巻さん

# 帰って来た 各県この人

各県・現場で運動に、趣味に、仕事に頑張る人々を紹介するコーナーです。第79回は北海道と三重にお願いしました。

除雪機のCMが流れる北海道からは、加藤隆書記次長を紹介します。札幌厚生病院臨床検査技術科の病理を支える中堅として入会11年目になります。札幌分会書記長3年、本部中央執行委員3年と組合活動ではベテランですが、新任書記次長として先輩常任の無茶ぶりで中央執行委員対象学習会講師、27日開催の分会役員学習会講師と奮闘中の日々です。そんな加藤書記次長ですが、11月には新米パパになります。機会があったら新米パパの奮闘記を披露しますね〜。



北海道 加藤 隆さん

菰野厚生病院4年目看護師の世古奈月です。私は、2年間三厚労の青年部役員をさせていただきました。任期を終えた今ホッとした気持ちもありますが、楽しかった分少し寂しさもあります。特に今年1年間は他支部の役員と一緒に様々な組合活動に参加しました。いろんな集会に参加し、多くの人に出会い、そこで情報を得たことで、三厚労青年部活動がこのままでいいのか…?と考えさせられたり、三重県の良さを客観的に感じることもできました。病棟で働いているだけでは知ることが出来ない、陰で支えてくれている組合について知ることができ、今の働いている環境に感謝の気持ちでいっぱいです。



三重 世古奈月さん

任期は終わりましたが、また機会があれば活動に参加したいです。そして、自分が得てきた事を周りの青年部にも伝え、組合活動にも参加してもらいたいです。今の職場で働く楽しさが増えるかもしれませんよ。

2年間支えてくれた書記局の方々、そして一緒に頑張った役員の方みんなありがとう。

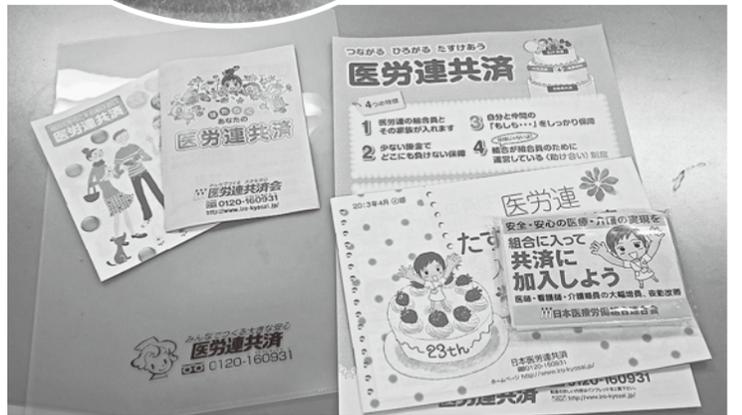
# 多彩な共済宣伝物を利用して 共済加入をすすめよう!

医療連共済は民間保険会社とは違ってTVコマースシャルや豪華なパンフレットを使わないため広告料などが少ないことは前回お話ししました。大手メディアなどを使わない代わりにどんな方法で加入者を増やしているのかというと、労働組合のつながりを利用した口コミがメインになります。毎年作られているポケットティッシュと、今年はさらにキャンディーを作成、すでに各県労組にお送りしていますので、組合の共済説明会等を

ティッシュやキャンディーの他にもクリアファイルやチラシなどもあります。必要な資料やグッズがありましたらぜひご相談ください。



開催して参加した方に食べていただくなど活用ください。他の組合ではドーナツやプチケーキを用意して和やかな雰囲気の説明会を開催し、共済が広がった経験が紹介されています。



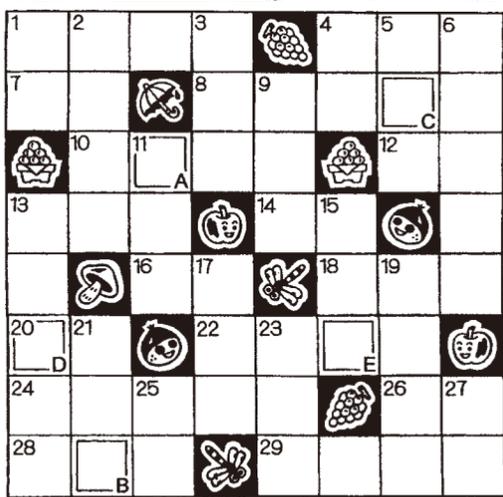
## 読者の声

紙上模擬団交のページを読ませていただきましたが、過去に私も二交替夜勤を経験したことがあります。若かったとはいえいつも神経を使い、体も疲れていました。子どものいる方は長時間の拘束時間のためやむなく退職されていきました。もう二度とやりたくないとは思っています。三交替もきつくなってきましたが好きな仕事だったので現実ですヨ (福島)

今職場でも二交替導入の動きがあり、今回の話はすごく興味があります。本組合って存在がすごいと思います。どんな頑張ってもらいたいし、私もできることはしていきたいです。(富山)

4コマ漫画言いたい劇場(402号)を見ました。新エネルギーほめられてがんばるエネルギー、すごいです。現代人、人をほめることよりもあらを採り、攻撃する人が増えている気がします。一日一個、人をほめてみるのも自分の心に潤いを持つことができるとは思いません。それにほめられる事も嬉しいですね。(静岡)

## ザ・クロスワード



答え A B C D E

★答えは16ページ

### ヨコのカギ

- 1 ……の目。……一過
- 4 信長の……を懐に入れて温めた木下藤吉郎
- 7 馬のは、桜……と呼ばれます
- 8 ワインのことで
- 10 中秋の……
- 12 ワックスともいう
- 13 五輪は……することに意義がある
- 14 英語ではBEAR
- 16 仕事率の単位。百万馬……
- 18 飛行機が飛び立つ
- 20 泣き言。……をこぼす
- 22 秋桜とも呼ばれる花
- 24 のんきで気楽な人
- 26 母と子。……家庭
- 28 白鳥のことで
- 29 財産を多く所有する人

### タテのカギ

- 1 山と山の間のへこんだ所
- 2 育児をする男
- 3 赤ちゃんに生えている
- 4 マンモスはこの仲間
- 5 ……指をさされる
- 6 外国に在留して勉強
- 9 人間……に入院して健康診断
- 11 船につける重り
- 13 日よけ眼鏡
- 15 阿寒湖の天然記念物
- 17 すでに結婚しています
- 19 ポルトガルの首都
- 21 穴が開いています
- 23 紙幣に入っています
- 25 ……高く馬肥ゆる秋
- 27 花札の紅葉に描かれている動物

当選者10名様に図書カードを差し上げます。クロスワードパズルの答えと本紙の感想などを添えて下記あて先へお送りください。当選の結果は発送をもって代えさせていただきます。(7月号の答え：ナツヤスミ)